

ゲートボールの組織化の経緯

吉村 麻奈美(神戸大学)

1. 目的

本研究では、ゲートボール協会などの組織がなぜ乱立し、どのように統合していったのかを明らかにすることを目的とする。また、現在高齢化社会であるとともに、いずれは誰もが高齢者になる中で、高齢者とスポーツ並びに組織とのより良い関係を見つける一助となることを意義とする。

2. 方法

本研究では、日本ゲートボール連合の機関誌や議事録、新聞記事といった史料を用いて、以下の時期区分に従ってゲートボールの組織化の経緯を明らかにしていく。

- 1) ゲートボールの誕生と組織の乱立(1947年～1983年)
- 2) ルール統一に向けて(1980年～1984年)
- 3) 組織統一に向けて(1984年～)

3. 結果と考察

1) ゲートボールの誕生と組織の乱立

1947年に北海道で鈴木和伸によって誕生したものの、鈴木の普及活動では全国普及に至らず、九州をはじめ様々な地域や組織がそれぞれ普及活動を行ったため、複数の組織やルールが乱立し、混乱が起こった。

2) ルール統一に向けて

1980年から日本レクリエーション協会を仲介役として、主要3団体である日本ゲートボール協会・日本ゲートボール協議会・全国ゲートボール協会連合会によりルール統一に向けた振興会議が定期的に行われたが統一ルール作りは失敗に終わる。また、ゲートボール創始者の鈴木が全協連相手に著作権の訴訟を起こすがこれも失敗に終わる。統一ルール作りが失敗に終わった大

きな原因としては、各組織ともに対抗意識が強く、自分達のメンツや利益に固執したからだと考えられる。

3) 組織統一に向けて

混乱するゲートボール界に行政組織から1983年9月に「ゲートボール団体調整のお願い」という要望書が日本体育協会に出された。これにより、ルール問題よりも全国の組織をまとめることを先決とし、統一組織結成のためゲートボール関係者、体育・スポーツの学識者などが「日本ゲートボール連合」結成に向けて動き出した。1984年6月15日に(財)日本船舶振興会理事長の笹川良一に日本ゲートボール連合の会長就任を依頼し承諾を得た。同時に笹川が会長を務めるB&G財団より財団法人設立に必要な基金5,000万円の搬出が了解された。そして9月28日付けで文部大臣に対し、正式に財団法人日本ゲートボール連合の設立許可申請が提出され、異例の3ヶ月の早さの12月21日付けで文部省から(財)日本ゲートボール連合の設立が許可された。統一組織に向けて動き出してから迅速に結成まで進んだのは、第一にゲートボール組織の関係者だけでなく体育・スポーツの学識者たちが多数参加し広い知見から、統一組織結成後の国体参加やレクリエーションスポーツとしての発展などを望んだこと、第二に資金援助があったことを主な要因として複合的に合わさった結果だと考える。

<参考文献>

- 1) 財団法人日本ゲートボール連合、「日本ゲートボール連合10年のあゆみ」、1995年12月